

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第80期の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社グループの取り組みにつきましては、昨年1月に発表しました中期的な経営施策「FDKグループの成長に向けた新たな方針と施策」に沿って、電子機器のパワー領域と高周波領域に経営資源を集中し、当社の強みである素材技術に立脚した製品展開と事業の選択と集中を強力に推進してまいりました。

しかしながら、世界同時不況の影響を受けた市場の収縮による受注減少により、当社グループを取り巻く市場環境は、非常に厳しい状況となり、特に液晶ディスプレイ向け製品については、景気減速の影響を最も強く受け、当初の計画を大きく下回ることとなりました。その結果、当社は前期第3四半期末において債務超過に陥ることとなりました。

株主の皆様には、このような状態になりましたことを深くお詫び申し上げます。

当社はこのような状況を打開するために、財務体質・経営基盤の強化を目的とした様々な施策の検討を行なうなかで、筆頭株主である富士通株式会社が当社の構造改革に理解を示していただき、本年5月に同社を引き受け先とする総額約110億円の第三者割当増資を行ないました。

株主の皆様にはご心配をおかけいたしましたことを誠に申し訳なく重ねてお詫び申し上げます。

今後の事業環境につきましては、厳しい状況が継続するものと予想しております。このようななかで当社グループは、電池事業を収益の基盤とするとともに、磁気・素材技術を活かした特長ある電子部品に注力し、経営資源を集中してまいります。

また、当社グループが有する技術を最大限活用し事業の強化を図るとともに販売面、量産面で他社とのライアンスを進めてまいります。ワールドワイドに展開した拠点につきましては、世界的な需要縮小に対応し、生産体制・オペレーションの見直しを図ってまいります。加えて、グループ内の人員のスリム化をさらに進めてまいります。これまでも取り組んでまいりましたコスト削減については、固定費および経費等の削減に努める一方で、一層の業務効率化に取り組み、受注変動に強い生産体制の構築を進めてまいります。

当社グループはこれらの事業構造改革の施策を推進し、付加価値の高い製品への集中を進めるとともに、徹底的なコスト削減に努めることで必ずや再生できるものと考えております。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年6月



代表取締役 加藤 健二